令和6年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

●R6年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	これまでの取組状況	左記課題の解決のために令和6年度に実施する具体的な取組	本事業で達成する目標(アウトカム)	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析(事業における成果、課題、改善点等)	目標等の公表先	
13227羽村市	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	羽村市では、特色ある教育活動として、学校と地域が連携した学校づくりを進めているが、学校のニーズの多様化により、地域人材の確保が課題となっている。	令和5年度は、学校と地域の連絡調整役として、地域コーディネーター(統括コーディネーターを含む)を4人配置するとともに、コミュニティ・スクール導入校2校に活動推進員を配置し、学校のニーズをもとに、地域人材の確保のための調整等を行っている。	令和6年度は、市内全ての学校に活動推進員を配置し、地域コーディネーターと共に、地域人材の確保のための調整等を行う。 地域コーディネーターはこれまで同職の経験がある方をお願いする予定であり、活動推進員の育成も行う。	各学校で地域人材を活用した活動を展開することで、地域の方が学校教育に関心を持つとともに、児童・生徒の郷土はむらを大切にす気持ちや地域に貢献する思いが醸成され、地域(社会)に開かれた教育課程につなげることができる。	学校の活動へのボランティア数(延べ)	4922	その他	4950	3252	02 本年度の目標値を下回り、取組の工夫・改善が求められる	各学校で地域人材を活用した活動を展開することで、地域の方が学校教育に関心を持つとともに、児童・生徒の郷土はむらを大切にす気持ちが育まれた。学校により、地域人材の活用に差があり、今後、学校間の情報共有を行うことで、より充実したものとなる。	羽村市公式サイト https://www.city.hamura.tokyo.jp/0000018570.html
13227羽村市	①学校運営上の課題	02 社会に開かれた教育課程への対応	社会に開かれた学校経営を進めるにあたり、令和6年度市内8校に学校運営協議会を設置し、市立学校全10校がコミュニティ・スクールとなる。 新しい取組となるコミュニティ・スクールの意義や地域との関わり方などを協議会委員や学校、地域が共通理解することが必要である。	これまで、地域、学校、関係者の理解を深めるために研修会を行ってきたが、実際にコミュニティ・スクールとしての取組が少ない中ではイメージが付きにくかった。	コミュニティ・スクール導入にあたり、その意義や地域とのかかわり方、学校運営協議会の役割などの理解を深めるための研修会を行う。	研修会を実施することで、コミュニティ・スクールに関する理解が深まり、社会に開かれた教育課程への対応の第一歩となる。	研修参加者の理解度	1	その他	1	1	03 本年度の目標値を達成し、課題の改善が見られた	研修会を実施することで、コミュニティ・スクールに関する理解が深まった。特に、コミュニティ・スクール委員会(学校運営協議会)と地域学校協働本部との役割の違いについて理解を深め、社会に開かれた教育課程への第一歩となった。	羽村市公式サイト https://www.city.hamura.tokyo.jp/0000018570.html